



学校だより おおうら

HPトピックス
(ブログも随時更新中)



成長を支える環境づくり～学びの場の視点～

朝、校門をくぐると子どもたちは真っ先に畑に行き作物の水やりをします。友だちと育ち具合を教え合う姿も見られます。写真は、地域の方に花の苗の植え方を教わっているひとコマです。

子どもたちは様々な体験を通じて、学習意欲や自分への自信を積み重ねています。「次もやってみよう」「他の人に伝えたい。」などコミュニケーションの力も高めています。これからの予測が難しい社会をたくましく生き抜いていくためには、広い視野をもち、多少の壁があってもあきらめずに挑戦する力をつけることが大切とされています。その礎となるものが豊かな体験です。国立青少年教育振興機構の調査によると、多様な体験を土台とした子どもの成長を支える環境づくりの視点として 次のような内容が示されています。

- 「体験する」ということは、その活動を通じて得られる感情（嬉しい・悔しい等）や 気付き（分かる・発見する）などの体験の質も含まれる。また、他者からの働きかけ（褒められる・叱られる）など、人とのかかわりも含まれる。こうした体験で得られる感情や気付き、学びが子どもの成長を促す大きな糧となる。
- 質の高い体験をさせるには、「やろう」という気持ちにさせることが必要である。主体的な学びほど喜びや充実感も大きく、さらに知りたいという意欲を喚起する。そのためには、体験を通じて「分かる（気付く）」ことができる 機会を設けることが大切である。

資質・能力の育成は、体験を重ねれば自然に身に付くものもあります。しかし、どのように体験をさせるのか、体験を通じて大人とどう関わるのかも欠かせない視点であることが分かります。1学期も残すところ3週間あまりとなりました。子どもたちも夏休みに向けて、期待を膨らませています。

